

特集

下水道通水50周年

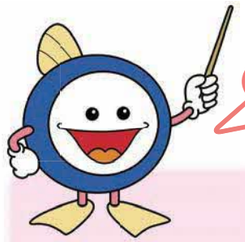
循環のみち、サスティナブルな未来

ーこれまでもこれからも、ずっと送り続ける　安心と安全ー

川西市の下水道は、昭和 40(西暦 1965) 年に猪名川流域下水道事業への参画に始まり、昭和 44(西暦 1969) 年の火打前処理場 (現：キセラ川西せせらぎ公園) の稼働などを経て、昭和 49(西暦 1974) 年の本市から豊中市の原田処理場までの猪名川流域下水道の完成により、公共下水道供用を開始しました。

以来、市民のみなさんの毎日のくらしや産業に欠かせない、「あってあたりまえ」の安心で安全な循環のみち＝下水道を守り続けて、令和６(西暦 2024) 年で 50 周年を迎えます。

本号では、下水道通水 50 周年を記念して、川西市の下水道を特集します。



こんにちは！
下水道マスコットキャラクターのスイスイです！
今回は、川西市下水道通水 50 周年にちなんで、
下水道についてＱ＆Ａ形式で紹介します！

「スイスイ」
下水道法の制定 100 周年を記念して、公益社団法人日本下水道協会より誕生した下水道のマスコットキャラクター



なぜ下水道は必要なの？

みなさんの暮らしに欠かせない下水道ですが、それを必要とする３つの大切な役割があります。

１. 暮らしを清潔に保つ（公衆衛生の向上）

家庭や工場などで使われた汚れた水（以下「汚水」とします）を、速やかに汚水管へ流すことによって環境悪化を防ぎ、衛生的で快適な生活を送れるようにします。

２. 河川などの水質悪化を防ぐ (公共用水域の水質保全)

汚水管を通って運ばれた汚水を、下水処理場（川西市では原田処理場）で処理してきれいな水にして川や海に戻すことで、川や海の水質を守る役割を果たし、地球環境を守っています。

３. 浸水被害を防ぐ（浸水防除）

降った雨（以下「雨水」とします）を速やかに雨水管に流し河川に放流することで、浸水被害を防いでいます。

このように、雨水と汚水によって下水道の役割は異なります。

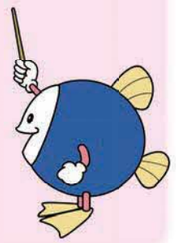


なぜ雨水と汚水に分けるの？

下水処理場には処理能力が定められており、一度に汚水をきれいにできる量が決まっています。汚水に加えて雨水まで下水処理場で受け入れてしまうと、その分大きな施設が必要となります。

そのため、雨水と汚水を分けて集水して、雨水は雨水管で川や海に排水し、汚水は汚水管で下水処理場へ送っています。雨水と汚水を分けて処理する方法を「分流式」といい、川西市ではこの分流式を採用しています。





かわにしの下水道 50年間のあゆみ

- **昭和40（西暦1965）年5月** 猪名川流域下水道事業に参画
- **昭和44（西暦1969）年4月** 火打前処理場完成
- **昭和49（西暦1974）年** 公共下水道供用開始（8月）
  公共下水道通水式（10月）
  前川雨水ポンプ場完成（10月）



- **昭和56（西暦1981）年3月** 加茂雨水ポンプ場完成



- **昭和63（西暦1988）年** デザインマンホール設置開始



- **平成10（西暦1998）年5月** 特定環境保全公共下水道※事業供用開始
- **平成18（西暦2006）年3月** 火打前処理場操業休止
- **平成25（西暦2013）年7月** 雨水貯留タンク設置助成制度受付開始



- **平成26（西暦2014）年3月** 川西市下水道ビジョン策定
- **令和2（西暦2020）年3月** 川西市新下水道ビジョン策定
- **令和6（西暦2024）年8月** 下水道通水50周年

※特定環境保全公共下水道：公共下水道のうち、主に市街化区域以外で設置され、農山漁村の生活環境の改善を図るための下水道